



お初先生らに共討し
其おの言説識を面を
おやりし 良匠の若くは
本河珠をぬく公明を
必地なり 大文が比例
他人の言を成するに及

るを 取服之外に
信 終るを在る存念
たるもの役をける中
を 始る中 人より
ありが 回念するに
副るおの言に 由
なるが 志に 終る
其 年通るといふ
河の中を 舟を
返し 見るの
やうに 見るに
其 理を 顔触るに

路と 見る人物に
中川忠実 信に
お角の 言を
お角の 言を
大元 言を



お角のさききり
とあまのまろち
大元はははは
かからむと相御
旧中一玉定
糸上のま

大元はははは
さのさききり
を牛知すの一端
故相戸は道引

切のま

十台 祥儀
いま福の
はるる
先ん
はるる

十一月十日

和

市島仁光

光